

2019年度から男女共学化とともに

若葉高等学校が変わります



福岡大学附属若葉高等学校 新教育ビジョン

2018年2月

はじめに ー高大教育接続改革の動きと本校の対応ー	1
1. 若葉高等学校の改革の取組み	1
2. 若葉高等学校の教育の基軸	2
3. 学校改革の概要	2
4. 改革推進体制	6
5. 教育改革の重点項目	6
6. 教育環境の刷新（校地の移転と校舎の新設）	9
むすび	

福岡大学附属若葉高等学校

新生・若葉高等学校の概要

2019年度からの男女共学化にともない、新たに生まれ変わる福岡大学附属若葉高等学校は、すべての関係者が活気にあふれ、「生徒が行きたくなる学校、保護者が行かせたくなる学校」を目指します。

男女共学化

- 110余年の女子高校の歴史を越え、2019年4月から男子生徒の受入れを始めます。
- 男女別の人数枠は設けず、初年度は**合計400人**を募集します。

教育の基軸

- 新校訓はこれまでの「強く、正しく、優しく」を引継ぎ、「**強 正 優**」とします。
- 教育理念と基本方針を新たにしました。

教育改革

- 全校共通の教育の柱として**高大一貫教育、グローバル教育、全人教育**を実践します。
- これまでの5コースを**高大一貫・特別進学・グローバル**の3コースに再編します。
- コース再編にともない、カリキュラムおよび教育システムを刷新します。
- 福岡大学との連携をさらに強化し、**高大一貫教育**の一層の充実を図ります。
- 福岡大学の協力のもと、本校の教育力と独自の教育の魅力を一層向上させます。

校地の移転と校舎の新設

- 新たな教育にふさわしい環境を提供するため、高宮校地(福岡市南区大楠三丁目)に新校舎を建築、**2022年度4月**から新校地での教育を開始します。

男子の受入れに関連する事項

- 男子制服の制定とともに、女子の制服も一新します。
- 福岡大学と連携して、男子のための部活動を新設します(現在調整中)。
- その他必要な対応や準備を着実に進めます。
- 現在の在校生や、女子校最後の2018年度入学生に対しても、これまで以上の万全なサポートをおこないます。

福岡大学附属若葉高等学校 新教育ビジョン

－新生・若葉高等学校の実現を目指して－

はじめに ー高大教育接続改革の動きと本校の対応ー

予測が困難なこれからの社会において、社会の変化に対応できる人材の育成が強く教育機関に求められています。文部科学省は、高等学校教育・大学教育・高大接続(大学入学者選抜)の三位一体の改革を行い、学生・生徒の「学力の3要素*」の伸長とその活用力・課題発見解決能力などの新しい能力を育成する方針を示しています。

本校は2010年に福岡大学附属若葉高等学校として再出発して以来、福岡大学とともに構築した高大一貫教育プログラムを柱に、独自の高校教育に取り組んできました。2017年3月には本校の第一期生が大学を卒業し、その成果を確認することができました。大学教育に必要な基礎学力と学習基盤とを着実に身につけさせる本校の高大一貫教育プログラムの理念は、高大接続の視点からまさに先見性をもっていたといえます。

この成果をもとに、本校は社会の変化に対応するだけでなく、変化の予測を先取りして「本校の教育理念を実践し、時代の要請に応える人材の育成」に努めます。さらに、社会から支持される高校としての確固たる地位を確立することを目指し、2019年度の男女共学化に向け教育改革を推進します。

* 学力の3要素: (1)知識・技能の確実な習得、(2)知識・技能を基にした課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度。

1. 若葉高等学校の改革の取組み

(1) 私学としての改革の前提 ー「教育力の向上」と「経営の安定」ー

これまで大学教育に求められてきた改革と、それにつながる中等教育の現状とを踏まえ、本校は学校全体としての「教育力の向上」に努め、果敢に教育改革を推進します。同時に、私学である本校は「教育力の向上」を図るためにも、また生徒や保護者の皆様にとって安心して学べる学校であり続けるためにも、「経営の安定」を図らなければなりません。この二つの課題をともに実現するため、本校は組織的・体系的そして継続的に学校改革に取り組んでいきます。

110年を超える前身校からの歴史と伝統を引き継ぎながらも、真に必要なものを適切に取舍選択し、新たなものについても躊躇することなく積極的に導入します。

(2) 附属若葉高等学校改革推進会議の提言と「新教育ビジョン」

本校は、2010年4月に学校法人福岡大学と学校法人九州女子高等学校との合併により、福岡大学の2校目の附属高校として再出発しました。爾来、教職員の熱心な教育活動とともに、

生徒募集の努力を行ってきましたが、全国的にも女子校への進学を希望する女子生徒の減少傾向がみられ、本校も定員充足率の低迷が続いてきました。

そのため2016年8月、福岡大学長のもと教学担当副学長を座長とする附属若葉高等学校改革推進会議が設置され、本校の将来について慎重に議論が重ねられてきました。2017年4月、同会議から学長へ提案書が提出され、男女の別なく教育の機会を提供すること(男女共学化)、高大一貫教育プログラムの一層の充実を図ること、コース再編を行うこと、学則定員を見直すことなどが提案されました。

この提案に基づく学長からの本校への指示を受け、本校では主体的に学校改革を推進することを決定し、「アクティブ・オール若葉」のスローガンのもと2017年6月から管理職による総合マネジメントと7つのアクション・ワーキンググループにより検討を開始しました。

校内で検討を重ね作成した本校の学校改革案は2017年12月21日の法人理事会および評議員会で承認され、それに基づいてこの「福岡大学附属若葉高等学校 新教育ビジョン」を作成しました。2019年度からの男女共学化を前に、その内容を社会に公表して、改革を着実に推進することにしました。

2. 若葉高等学校の教育の基軸

本校教育の基軸となる校訓・教育理念・基本方針を次のとおり定めました。

校 訓

「 強 正 優 」

九州高等女学校以来の校訓「強く、正しく、優しく」(1927年制定)は本校教育における普遍的な訓えです。男女共学化に際して、「強 正 優」の漢字三文字による表記としてこれを引き継ぎます。

教育理念

創造力と発信力を持って社会に貢献できる人の育成

気高く凛とした人間性豊かな人の育成

互いを認め合い、自ら考え判断し行動できる人の育成

基本方針

常に向上心を持って自ら学び続ける姿勢を育成する

幅広い教養とコミュニケーション力を高める

個人の才能を尊重し、文武両道を目指す

高い規範意識とモラルを身につけた、自律した人を育てる

教育の柱

全コース共通の教育の柱として、**高大一貫教育**、**グローバル教育**、**全人教育**を実践します。

3. 学校改革の概要

学校改革を進めるにあたり、正課授業も正課外活動(部活動等)も楽しく、生徒も教職員も活気にあふれている、そのような「生徒が行きたくなる学校、保護者が行かせたくなる学校」を目指して改革を進めることにしました。

(1) 女子校から男女共学校へ

本校は、地域を代表する男女共学の総合大学である福岡大学の附属高校として、男女の別なく教育の機会を提供することにしました。これまでの7年間の実績をもとに、本校の高大一貫教育を男子生徒へも拡張することは、社会の要請に応えるものであると考えます。同時にこれは福岡大学の2校目の附属高校として本校の役割と存在意義とを明確にするものでもあります。

福岡地区の私立高校入学者総数は平成18年度から平成28年度の間は微増していますが、女子校(8校)への入学者の割合は26.1%から21.4%に減少、一方男女共学校への入学者の割合は、65.0%から69.0%へと増加しています。そのため、女子校の間では、大型の奨学金制度の導入や学習塾との提携などの施策によって、年々減少する受験生を奪い合う状況です。全国的な共学志向と福岡地区の私立高校の入学状況から、男女共学化は速やかに取り組む必要があると判断し、**2019年度から男子生徒の受け入れを開始**することにしました。**男女別の人数枠は設けず**新入生を募集します。

(2) 高大一貫教育プログラムの一層の充実

本校は開校以来、独自の高大一貫教育プログラムを柱に高校教育を実践してきました。昨年度の2017年3月、若葉高校の第一期卒業生が大学を卒業しました。福岡大学に進学した第一期生は、他校からの入学者と比較しても全く遜色なく学業を修め、希望の進路を実現してすでに社会で活躍を始めています。これは本校の高大一貫教育の成果として誇ることができるものです。しかし、一貫教育の導入から7年を経て、プログラムの検証・評価の過程で改善が必要なものも出てきています。このプログラムのさらなる強化・充実を図るためにも、男女共学化を機に、福岡大学と本校との連携を一層強化することによって、本校が誇る高大一貫教育プログラムを再構築し、新たな時代の新たな教育を実践します。

(3) 学則定員の見直し

現在の学則定員は520人ですが、九州女子高校時代に中高一貫コースの設置を構想していたことからこの定員が設定されてきた経緯があります。この数は本校の現状とは大きく乖離しており、440人程度まで減らすことが適切であるとも考えられます。しかし、男子の受け入れを開始する2019年度においては、学則定員についてはそのままとして、**募集人数は男女合わせて400人**としています。学則定員の削減とその実施時期については、本校の共学化後の入学者数を見ながら検討することとしています。

(4) コースと教育システムの改革

現在の本校のコース編成は、特別進学・福大・国際・進学・進学体育の5コース制ですが、2019年度入学生から「**高大一貫コース**」「**特別進学コース**」「**グローバルコース**」の**3コース制**に改編、それに合わせ教育システムも刷新します。

再編成によって誕生する3つのコースは、既存の福大コース・特別進学コース・国際コースの多くの蓄積を引継ぐものでもありますが、それぞれのカリキュラムや教育システムには、これまでとは異なる新たな科目や取組みを準備、あるいは計画をしています。それらの一部を示せば以下のとおりです。

1) 高大一貫コース 320人(40人×8クラス)

高大一貫教育プログラムを核として、福岡大学および中堅私立大学の文系・理系各学部への現役合格を目指すコースです。文系・理系にとらわれることなく大学教育に必要な幅広い視野と豊かな教養を習得させ、大学教育への円滑な移行を図ります。拡大した附属推薦制度により福岡大学に進学できますが、福岡大学以外の大学への進学もサポートします。

- ① 福岡大学の各学部や企業と連携したキャリア教育を実施する。
- ② 2年次までは必修科目により広く文・理系全般の基礎学力の定着を徹底するが、選択科目を設置することによって進路を見据えた学習を可能にする。
- ③ 英語教育の充実により、生きた英語の習得や英語検定取得を実現する。
- ④ 附属推薦(専願)内定者は、3年次に個人で課題研究(卒業研究)を行う。
- ⑤ アドバンスト・プレイスメントによる大学科目の単位認定を可能にする。

2) 特別進学コース 40人(40人×1クラス)

難関国公立大学への現役合格を目指す生徒に、従来からの「学力」だけではなく、思考力や問題解決能力を身につけさせ、変わりゆく大学入試にも対応できるコースです。

- ① 福岡大学医学部医学科・薬学部と連携したキャリア教育を実施する(医師・薬剤師体験など)。
- ② 福岡大学各学部や企業と連携した教育を実施する。
- ③ 大学や企業における最先端研究の見学や体験を実施する。
- ④ 予備校と連携した受験指導を実施する。

3) グローバルコース 40人(40人×1クラス)

自国の文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するコースです。確かな学力の上に、自ら応用・活用できる英語運用能力や海外経験・知識・思考力を身につけ、SGUレベルの国内大学や海外の大学への進学を目指します。同時に全校共通の教育の柱の一つであるグローバル教育を全校で展開するための牽引役として、各種の先駆的試みを導入・実践します。

- ① 福岡大学各学部および国際センター、公的機関、民間企業と連携した教育を実施する。
- ② 英語は基礎から4技能を伸ばす教育を行う。
- ③ 海外への短期・長期の研修や留学(必須)、福岡大学や先進的な国際教育を行う国内大学での研修、英語合宿等を行う。
- ④ 日本人とネイティブによる担任2人制、授業以外にHRでも、常に英語漬けにする。
- ⑤ ALTを活用した英語イマージョン教育を検討する。

4) 各コース共通の取り組み

3コースはいずれも文部科学省が唱える「学力の3要素」の伸長とその活用力・課題発見解決能力などの新しい能力の育成を目標とします。

全コース共通の教育の柱として、**高大一貫教育**、**グローバル教育**、**全人教育**を実践し、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」をとおして基礎学力を定着させ、常に自主的に学ぶ学習基盤を形成します。3年間をとおして、英語および英語による教育、英語以

外の外国語教育、異文化コミュニケーション教育、グローバル講演会、海外研修・留学など時代の要請に適う多彩なプログラムを設け、福岡大学での講義の受講機会も増やします。

さらに、正課の授業にとどまることなく、部活動・生徒会活動・ボランティア活動等、幅広い正課外活動への積極的参加を推奨します。

- ① 「若葉フォリオ」をさらに充実し、学習および生活指導を強化する。
- ② 福岡大学からの出張授業・模擬講義、および福岡大学での講義体験の機会を増やす。
- ③ 小論文講座・課題研究を実施する。1年生は、文章読解や文章作成力および探究的な学習の基礎を学び、2年生の高大一貫・グローバル両コースは、個人・グループによる課題研究を行う。特別進学コースは「図書館資料」を利用した小論文・感想文の課題を夏休みに実施する。
- ④ 高校と大学の計7年間を見据えたキャリア教育を実施する。
- ⑤ 3年間を通して英語教育に力を入れ、活きた英語を身につけさせる。そのための時間をカリキュラムに組込む。また、第2外国語を放課後に選択履修できるようにする。

(5) 教育力の向上

教育改革とその実践には、本校教員の教育力向上が不可欠です。本校ではこれまで以上に校内はもちろん外部研修等の機会を増やし、教員個人の教育力の向上を図ります。そのための研修制度も見直し、充実させます。

また、福岡大学の専門性を有する多くの教授陣が、本校の教育の柱である高大一貫教育、グローバル教育、全人教育に関わり、協力することによって、本校全体としての教育力の向上を強力に支援し、同時に他校ではできない本校独自の教育の魅力をさらに向上させます。

4. 改革推進体制

(1) 管理職による総合マネジメント

学校改革の推進は、管理職が総合マネジメントの役割を果たし、本校の改革を牽引しています。総合マネジメントの基本方針・活動指針・活動計画を定め、校内に公表することにより改革を推進しています。総合マネジメントの基本方針は次のとおりです。

基本方針

- 1) 総合マネジメントの原点を、「教育理念の実践」に置き、本校の「安定と発展」を図るために最大限に努力する。
- 2) 校訓・教育理念・基本方針に基づいた教育活動を持続的・発展的に推進するため、安定的な財政基盤を確立する。
- 3) 財政上の収支構造は、少子化、教育条件の競争的環境によりさらに厳しくなるため、重点的投資と、なお一層の効率的経営に努める。

(2) 教育改革にあたっての基本方針・活動指針・活動計画

本校改革にあたっては管理職会議が中心となって推進しますが、特に教育に係る改革についても基本方針・活動指針・活動計画を定め、校内に公表して推進しています。なお、教育改革の基本方針は次のとおりです。

基本方針

- 1) 本校教育の柱である、高大一貫教育、グローバル教育、全人教育を実践し、文部科学省が唱える「学力の3要素」の養成とその活用・課題発見解決能力など、新しい時代に求められる新しい能力をバランスよく育成する。
- 2) 正課の授業にとどまることなく、部活動・生徒会活動・ボランティア活動等、幅広い正課外活動への積極的参加を推奨する。
- 3) 福岡大学の附属高校である特長を最大限に活かすことで、本校の独自性と優位性を追求する。

5. 教育改革の重点項目

教育改革にあたって特に重視する項目は、不断の授業改善(特にアクティブ・ラーニング、ICTの活用)、グローバル教育、スポーツ・文化活動、およびキャリア教育の4項目です。各項目の具体化にあたっては、担当する委員会や会議において検討し、管理職会議や校務運営協議会の審議を経て決定、実施していきます。

(1) 不断の授業改善

学校教育の中心は授業であり、社会の要請に応え、生徒や保護者が満足できる学校教育を提供するためには、何をおいても日々の授業をよりよいものにするための継続的な努力が必要です。本校では特にアクティブ・ラーニングとICTの活用に重点を置いて、授業改善を進めます。

a. アクティブ・ラーニング

日々の授業を生徒にとってより良い授業とするためには、教員自らが指導方法を不断に見直し、授業改善に取り組むことが重要です。指導方法の一つとして、積極的にアクティブ・ラーニングの導入を図ります。基本方針・活動指針・活動計画に従って全校的に推進していきます。その基本方針は次のとおりです。

基本方針

課題の発見と解決に向けて、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を推進する。教員は、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろん「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視し、生徒の学習意欲を高め、知識・技能を定着させるために、主体的・能動的な活用・探究の学習を主とした授業を展開する。

1) 従来からの授業方法との融合を図る。

アクティブ・ラーニングは、授業を一定の型にはめ、狭い意味での授業の方法や技術の改善に終始するものではない。教員一人ひとりが、生徒の発達の段階や発達の特性、生徒の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと教科等の学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、従来からの授業方法との融合や選択・工夫をしながら実践する。

2) 章や単元のまとまりの中で授業の改善を図る。

毎回の授業の改善という視点を超え、章や単元のまとまりの中で、授業内容のつながりを意識しながら、指導のねらいや生徒の実態に応じた教材を十分吟味する。

b. ICT の活用

授業の指導方法の一つであるアクティブ・ラーニングを導入するにあたって、ICT を積極的に活用できるようにします。基本方針・活動指針・活動計画に従って全校的に推進します。その基本方針は次のとおりです。

基本方針

「ICT そのものが生徒の学力を向上させる」のではなく、「教員の授業技術として ICT を活用することが生徒の学力向上につながる」ことを念頭に置き、アクティブ・ラーニングにおいて積極的に ICT を活用する。

1) 高い教育効果を得るため、毎時の指導のねらいの把握、日頃からの生徒の実態把握、授業における発問、指示や説明のタイミングなど、従来からの授業技術と ICT の融合を図る。

2) 教員は、指導のねらいや生徒の実態に応じた教材を十分吟味する。

3) 日常的に ICT を活用するために、次の 2 つの点に配慮する。

① 普通教室や特別教室など全ての教室に ICT 機器を設置する。

② 機器の準備や調整等が簡便で、すぐに使える ICT 機器の導入を図る。

(2) グローバル教育

グローバル教育に関するビジョンを定め、さらにこれに基づいて定めた基本方針・活動指針・活動計画に従って全校的に推進します。なお、あらたな「グローバルコース」が本校全体のグローバル教育の牽引役となります。本校が定めた「グローバル教育ビジョン」と基本方針は次のとおりです。

グローバル教育ビジョン

社会・経済のグローバル化が急速に進展するなかで、日本はグローバルな視野で積極的に活躍する人材の育成が急務になっている。中等教育段階においても、このような素養を育成する教育が求められている。

本校は、福岡大学との一貫教育により、外国語能力だけではなく、国際的素養と視野および行動力を備えた人材の育成を推進する。

基本方針

- 1) コミュニケーションできる英語力とグローバルな視野を身につける。そのために海外の高校と協定を結び、生徒の派遣・受入れなど様々なプログラムにより国際理解教育、言語活動（「話すこと」など）を推進し、グローバルに活躍できる人材を育成する。
- 2) 自国の文化を尊重すると共に、外国語やその背景にある文化の多様性を理解し、他者に配慮しながら幅広い話題について外国語での確に理解したり適切に伝えあったりする能力を養う。
- 3) 教育は、グローバル教育委員会を中心に、国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）の理念や教育手法の導入を視野に入れながら推進する。

(3) スポーツ・文化活動

男子生徒の方が女子生徒に比べると運動部への加入率が高いため、共学後はさらに充実した部活動への期待が大きいと思われます。また、部活動を頑張ることで授業に前向きに取り組めることや、部活動を楽しむことで学校が好きになり充実した学校生活を送っているなど、文部科学省等の調査結果からも見て取れます。したがって本校ではこれまでも増して部活動等の活性化を推進します。

部活動や体育祭・文化祭などの学校行事をとおして、また、あわせて日常の健康管理の意識を高めることにより、生徒の日々のスクールライフをより充実したものにします。本校が定めた基本方針、活動指針および活動計画にしたがって全校的に推進します。基本方針は以下のとおりです。

基本方針

- 1) 高校スポーツ、文化活動の教育的有用性を目指した活動を実践する。
- 2) 学校生活をより豊かで充実し活気あるものとするため、生徒に学校行事への積極的な参加を促し、生徒主体による生徒の為の運営ができるように努める。
- 3) 生徒に健康の維持増進と疾病予防の大切さを理解させ、日々の健康管理の姿勢を育成する。
- 4) 部活動顧問の活動しやすい環境作りに努める。
- 5) 成績が優秀な強化部を指定し、人的物的な支援を強化する。

(4) キャリア教育

高大一貫教育の観点から、高校と大学教育の7年間を見据えたキャリア教育を実施します。本校が定めた基本方針、活動指針および活動計画に従い、全校的に実施します。基本方針については次のとおりです。

基本方針

生徒が自らの夢や志について主体的に考え、学ぶ意欲を高めるとともに、能動的に学び、自己を確立していくことができるように、キャリア教育を充実する。

6. 教育環境の刷新（校地の移転と校舎の新設）

(1) 現在の校舎等の改善の必要性

昭和 40 年(1965 年)に完成した校舎(本館・西館)はすでに半世紀を超えています。そのため ICT を活用した新たな教育などへの対応に必ずしも適しているとは言えません。また、2019 年 4 月からの男女共学化にともない、新たに男子生徒を受入れるための施設・設備、さらに男子生徒のニーズに応える部活動等のための活動施設や関連設備の確保が必要です。現校地ではそれらの確保に限界があり、生徒・保護者・社会の期待に十分応えられない恐れがあります。したがって校舎を含めた教育環境を再構築します。

学校創設の地を離れることなく現校地で校舎を建替え、110 年余の歴史を紡ぎながら男女共学化・教育改革を実現することが理想ですが、校舎建替え工事には、少なくとも 4 年間で要すると思われ、また現校地で全施設を一気に更新することは困難なことから、完了までにはさらに期間を要することが予想されます。その間、授業や部活動、各種学校行事など高校生活のあらゆる面で支障が出ることを考えられます。したがって、在校生の学校生活に影響を与えない形で教育環境の整備を行うためには、新たな校地において最新の施設・設備を整備することが必要になりました。

(2) 高宮校地への本校移転（2022 年 4 月授業開始予定）

学校法人福岡大学は、共学化にともなう本校からの施設設備の更新・増設の要望に対して、本校の高宮校地への移転・新築を提案しました。本校内での検討および学内審議を経て、平成 29 年 12 月 21 日の学校法人福岡大学理事会において正式に本校の移築が承認されました。

これによって、高大一貫教育、グローバル教育、全人教育、男女共学化および継続的に推進していく本校の教育改革の基盤が整備されることになりました。高宮校地は通学のための交通の利便性は現校地に劣ることはなく、むしろ東西南北の広範囲からバス・電車・自転車による通学圏が設定できるようになります。また高宮地区は文教地区であり、教育環境においては現校地との差はありません。さらに 20 年前まで福岡大学商学部第二部の高宮校舎が存在した場所であり、福岡大学附属高校(教育機関)の設置に対する抵抗感も少ない地域です。なにより現校地で在学中の生徒には新校舎建設工事期間の支障が全くないという利点があります。

男女共学化が完了した 2021 年度末に全校移転し、2022 年度から新校地での授業を開始します。その間に年次を追って進行する教育改革と、新たな教育環境の実現が相まって、「教育力の向上」と「経営の安定」が可能になります。本校の地域社会への訴求力はさらに高まり、地域の高等学校教育を担う高校として、確固たる地位を築くことができると確信しています。

むすび

本校は福岡県を代表する高校の一つとして社会的評価を獲得できるよう、着実に、真摯にこの教育ビジョンの具体化に取り組んでまいります。新生・若葉高校にご期待いただくとともに、関係各位のご理解とご支援をお願いいたします。

以 上